



山本 涼子議員

南阿蘇の自然環境と村民の健康を守る為

水・環境への取り組みについて

山本議員

生きていく上で何よりも大切な水は、地球の持続可能なシステムで循環し私達人間や動植物、地球環境に潤いを与えてくれている。昨今、TSMC誘致で沸く熊本県だが、その反面、川や地下水の汚染の問題でも取り沙汰されている。熊本は水俣病の歴史があり、公式確認から69年経っても、未だに全面解決できていない。その記憶がしっかりと残っている県民にとっては重大な問題だ。最近、よく耳にする「PFAS」いわゆる有機フッ素化合物についての認識と、TSMCなどの半導体工場や産業廃棄物処理場による水質汚染の問題について太田村長の考えをお聞きします。

村長

村の水道水におけるPFAS検出の可能性は、水源の上流域に工場や廃棄物処理場が存在する地形的要因を考慮すると低いと認識している。しかし、令和6年には他の市町村に先駆けて全ての水源で検査を実施し、有機フッ素化合物は検出されなかった。本年度も9月に予定。また、県が今年度から飲用井戸の検査費用の一部補助開始。

山本議員

PFASは発ガン性、肝機能障害、免疫系などへの影響が懸念される。全国の川や地下水、水道水からも検出されている。南阿蘇村はミネラル豊富な水という阿蘇山の恩恵を受けているが、水は地球上で循環している。つまり下流域の問題は他人事ではない。そして、湧水が流れ込む白川だが、近年魚や蛍の激減が懸念される。実は、私達が生活の中で使っている、合成洗剤や油脂類、化学薬品は、合併浄化槽そして下水道処理施設では、処理はできない。つまり、そのまま川や海に流していることになる。自然の循環で水は地球を潤しているが、人間の生活の変化で、地球の微生物や鉱物による浄化作用も限界を迎えていると考える。豊かな自然に感謝し、環境を守り、自然をいかした新しい未来の土台作りが必要な時ではないか。行政が率先して持続可能な豊かな自然環境を未来に繋げていけるよう、村長のリーダーシップに期待したい。

村民の健康な暮らしについて

山本議員

私達の身体は、食べた物で作られる。食べた物で健康になれるし、病気にも簡単になれる。しかし現代は、忙しさのあまり簡単や手間要らず…など歌ったインスタント食品が溢れかえっている。その背景に1500種類もの添加物が許可され、それが日本の添加物大国とも呼ばれる由縁である。また、薬の消費大国でもあり、世界の3分の1の薬を消費している。コロナパンデミックでは、予防と称して何度もワクチンを多くの村民が接種した。(その結果、厚生労働省の人口動態を見ると効果はなく、逆に死者が増加。)戦後、食生活が変わりまた添加物の使用が増えた結果、癌が台頭し今や2人に1人が癌を発症する勢いである。そして糖尿病・高血圧も同じ勢いで増え続けている。病気と診断されると薬が処方され、薬の消費がますます増え、受け入れる病院も増加、医療費も増え続け、そして国民健康保険料も上がる。まさに負のループに陥っている。コロナパンデミックを機に生活を見直す時ではないか。南阿蘇村の村民が心身ともに健康で生き生きと暮らすためには、個人個人の意識が一番大事であるが、村民をリードする行政そして何より首長の力量にかかっている。日本、南阿蘇の人口もどんどん減少してきた。南阿蘇村は独自で村民の健康と暮らしを守るために、新しい視点の健康の学びを取り入れていく必要がある。これを踏まえ、村長は村民の健康な暮らしの為に、どのような取り組みを考えていかれるか。

村長

令和5年度後期高齢者医療保険者数2353名、医療費100万328円/人(熊本県内において18番目)。健康づくりは高齢期のみならず、働き盛りから大切。村民の健康意識の底上げと持続可能な元気な村づくりの観点から、村内事業者との連携等がより一層必要。ワクチンだけではなく教育や仕事にしても、選ぶ判断基準は皆様のお考えを尊重していきたい。

山本議員

村民が健康で生き生きと笑顔で暮らすことが、南阿蘇村を更に輝かせ、そしてそれが一番の観光PRになる。常に村民に寄り添った愛あるリーダーとして太田村長に期待したい。